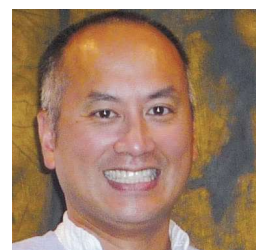




成長期における
インビザライン・ティーンによる
不正咬合治療の成功例



Dr. JASON NG
BDS

本症例の患者は13歳男性。
主訴は、でこぼこで歪んだ歯。



臨床像

大臼歯のハーフ Class II、
Class II div.2、
そして、50%の過蓋咬合

図1 治療前の口腔内および口腔外画像

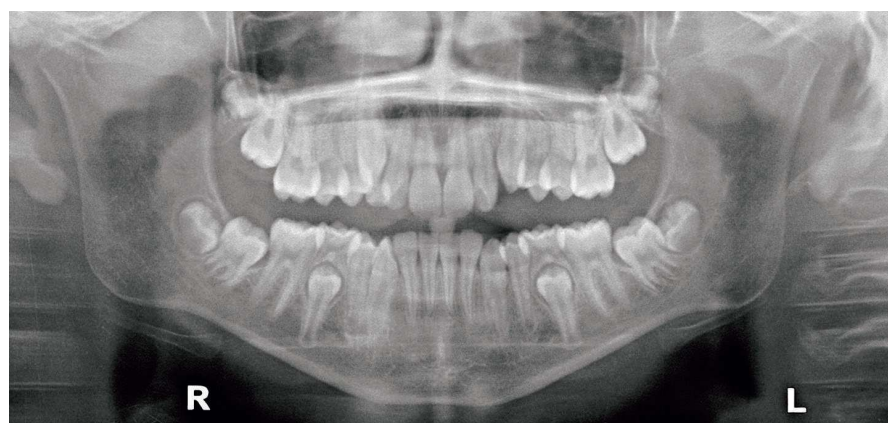


図2 治療前のパノラマX線写真

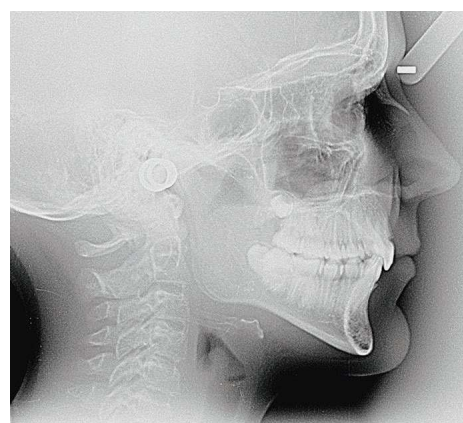


図3 治療前の頭部X線規格写真

臨床所見

- ・ 上顎後退
- ・ 下顎後退および小下顎症
- ・ 大臼歯のハーフ Class II
- ・ Class II div.2
- ・ 50%の過蓋咬合

治療目標

- ・ 顎の狭窄改善
- ・ 過蓋咬合の改善
- ・ 上顎切歯の舌側傾斜改善

治療方針

1. クリンチェック治療計画の作成

問題点の改善に向け、治療過程で上顎

用アライナー30ステージおよび下顎用アライナー13ステージを処方した。上顎歯列弓の治療継続中、下顎歯列弓にはパッシブアライナーを利用した。両下顎犬歯(3.3、4.3)にはインビザラインの回転用最適アタッチメントを設置した。追加アライナーは不要であった。

2. 補助装置の使用

II級ゴムを併用しての治療計画であったため、アライナーステージ4~25で患者はII級ゴムを終日装着した。クリンチェック・ソフトウェアでプレジジョンカットを処方し、上顎犬歯にフックを設置し、下顎第一大臼歯にボタンカットを設置した。

問題点の改善にむけ、
上顎用アライナー
30ステージおよび
下顎用アライナー
13ステージを処方

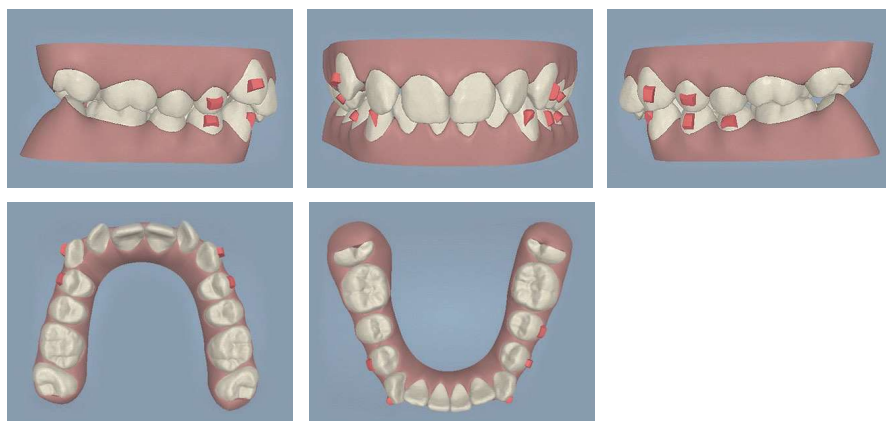


図4 クリンチェック治療計画の治療開始時の画像

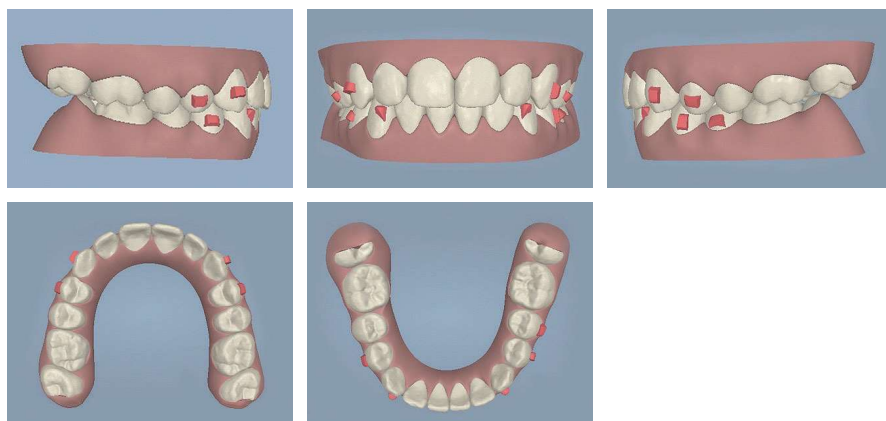


図5 クリンチェック治療計画の最終ステージ画像



図6 治療後の口腔内および口腔外画像

治療内容

治療期間

14ヶ月

使用アライナー

上顎用アライナー 30 ステージ

下顎用アライナー 13 ステージ

アタッチメント

回転用最適アタッチメント：3.3、4.3

治療結果

成長期にある患者は、非常に高い治療意欲を持って装着コンプライアンスを遵守したため、本症例に対するインビザライン治療の効果は高かった。

患者の成長期に タイミングを合わせて 治療を実施

臨床 Tips

患者の成長期にタイミングを合わせて治療を実施しました。上顎中切歯の舌側傾斜により、下顎の位置関係が Class II となっていたため、Class II 改善が治療計画立案の要でした。

結論

本症例は、成長期患者の治療法としてのインビザライン・ティーンの有効性を示すものである。

著者に関する免責事項

アライン・テクノロジー社はドクター Ng 氏に対し、本症例報告作成の謝礼を支払っています。

ドクター Jason Ng

Jason Ng 氏は20年を超える歯科治療経験を有しています。2011年のニュージーランドのトップ・インビザライン・ドクターを獲得し、プラチナ・インビザライン・ドクターとして表彰されました。さらに、2013年にもニュージーランドのトップ・インビザライン・ドクターとトップ・インビザライン・ティーン・ドクターを獲得しています。ドクター Ng 氏は1989年にニュージーランドの Otago University で歯科学の学位を取得しました。アジアとヨーロッパの各国を飛び回り、海外での治療を経験した後、1994年にニュージーランドに帰国し、Titirangi Dental Centerの共同経営者となりました。

販売名：クリンチェック・ソフトウェア 医療機器承認番号：23000BZX00197000

WWW.INVISALIGN.CO.JP

本症例報告は医療従事者を対象とし、適用される地域の法律、規制、ガイドラインに準拠するものとします。

© 2023 Align Technology, Inc. All rights reserved. Align, Invisalign, iTero, exocad, Viveraなどは、Align Technology, Inc. またはその子会社もしくは関連会社の商標および／またはサービスマークであり、米国および／またはその他の国において登録されています。

